The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	法律家の新しい社会的役割 : 日・韓・中の比較と連携可能性
Author(s)	三成, 賢次
Citation	阪大法学. 2009, 59(2), p. 155-156
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/54816
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

資料

法律家の新しい社会的役割

――日・韓・中の比較と連携可能性――

三成賢次

二〇〇八年二月二三日、国際協力機構（ＪＩＣＡ）大阪国際センターにおいて東アジア地域連携フォーラム（Forum on East Asian Linkage、以下ＦＥＡＬ）の第四回大阪大会が開催された。ＦＥＡＬは、日本、韓国、中国を中心に国を超えた人的交流を進め、東アジアにおける新たな研究等の連携活動を進める中で、東アジアの未来を担う人材を育成するために、二〇〇五年二月から活動を始めたネットワークである。大阪大学法学研究科は、高等司法研究科、国際公共政策研究科と協力しつつ、韓国の建国大学法科大学ならびに中国の復旦大学法学院との国際連携のもとに、これまで大阪、ソウル、上海の三都市において毎年ＦＥＡＬ大会を順番に開催してきた。(1)

今回のＦＥＡＬ大阪大会は、「法律家の新しい社会的役割――日・韓・中の比較と連携可能性――」を共通課題としてシンポジウムを行った。二一世紀に入り法の世界でもグローバル化が進みつつあるが、それに伴い東アジア各国においては、法曹養成や法律家のあり方について大きな変革が起こっている。(2) 法律家はどのような新しい役割を担うことを期待され、また担おうとしているのかを、東アジアの日・韓・中の三国における近年の動向を比較検

討し、互いの経験と知見を学びあい、知識を共有化することによって、東アジアの国際連携を深めていくことが今大会の目的であった。本シンポジウムでは、全体テーマのもとでさらに考察対象を広げ深めるために、第一主題「立法・政治過程における法律家の役割」、第二主題「ＡＤＲと交渉における法律家の役割」、第三主題「社内弁護士の役割」という三つの検討課題を掲げ、各主題別に日・韓・中、各国の状況を踏まえた報告を行った。

今回残念ながら全ての報告について原稿をそろえることはできなかったが、第一主題（洪報告・張報告）と第二主題（孫報告・大澤報告）に関わる報告原稿をそれぞれ二本ずつ得ることができたので以下資料として掲載する。原稿については、阪大法学に掲載するにあたり、すべて改めて書き直しや注を付けるなどをして頂いた。報告者の方々には、この場をお借りして改めて御礼を申し上げる。こうした継続的な東アジアに基盤を据えた研究連携活動を通じて、次世代を担う人たちの交流が育まれ、さらに活性化していくことを願っている。

最後に、シンポジウム当日の通訳とともに各論文の翻訳にあたって、中国語については黄軔霆氏（帝塚山大学准教授）に、韓国語については金美善氏（帝塚山大学法政策学部助手兼大阪大学大学院工学研究科特任助教）の両先生にそれぞれお世話になったことを記しておく。

（1）　ＦＥＡＬの活動について詳しくは、以下のホームページを参照。http://www2.osipp.osaka-u.ac.jp/~nomura/eastasian/forum-greeting.html

（2）　わが国における法曹養成制度の改革を踏まえ、諸外国との比較のもとに法律家の新たな活動領域の可能性と問題点を検討した研究として、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（Ａ）「法曹の新職域グランドデザイン構築」研究成果報告書（課題番号17203009・研究代表者　三成賢次）を挙げておく。当該科研による四年間にわたる調査研究活動について詳しくは、以下のホームページを参照。上記報告書もＰＤＦ版で掲載している。http://legalprofession.law.osaka-u.ac.jp/index.html